山形市教育研究所情報教育推進調査研究

【コミュニケーションシステムの活用・普及　Ⅱ】

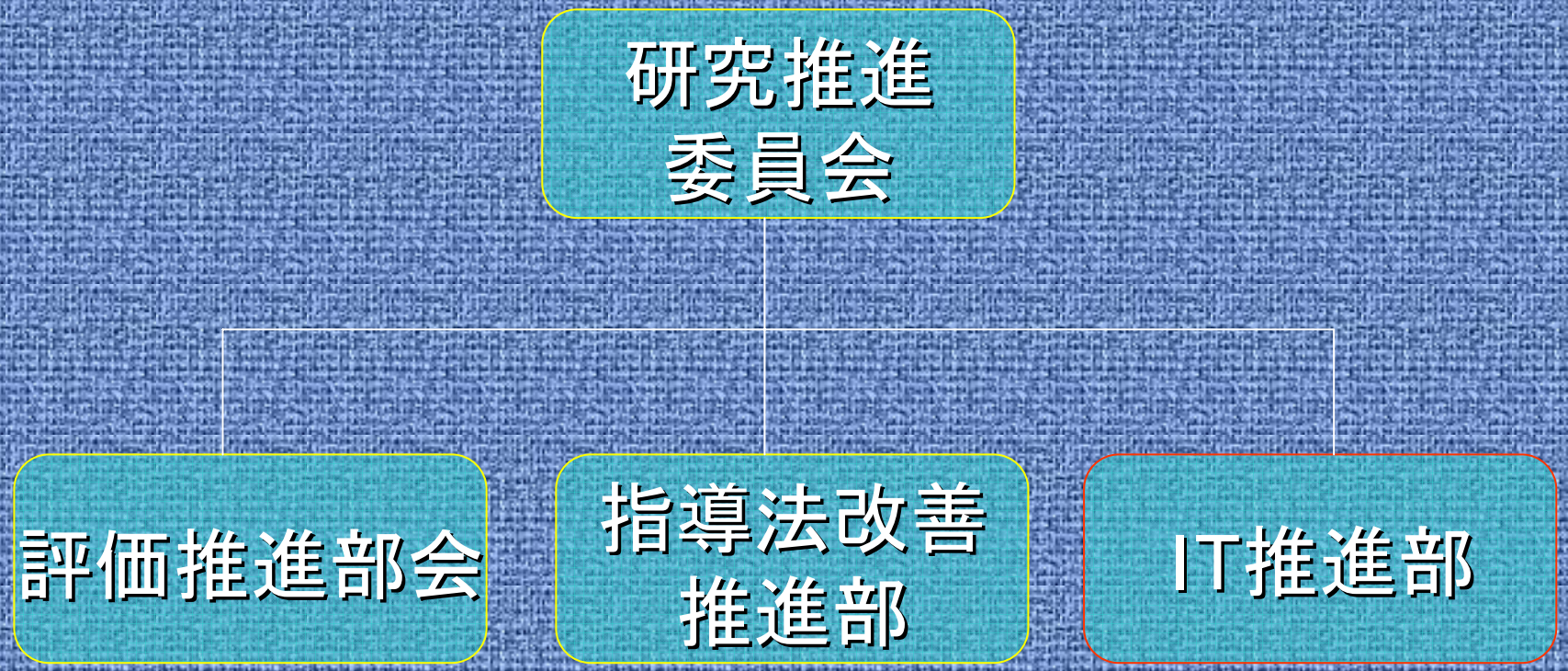
校内研究での位置付けと現状報告

山形市立第一中学校　　尾形晶彦
山形市立高瀬小学校　　有川正美

校内研究での位置付け

- 山形市立第一中学校
- 山形市立高瀬小学校

校内研究の組織構成（山形一中）



全職員がいずれかの推進部に所属し、全体で作り上げる研究をめざす。

IT推進部会の活動方針

- メール機能やテレビ会議システムを活用して、生徒のコミュニケーション能力や自己表現能力を高める工夫を推進する。
- 授業研究会の案内、校内の実践などのwebページへの発信を積極的に行う。
- 職員のネットワークシステムの研修を充実させ、全員が指導に当たれるようにする。
- 教材や情報データの共有化を進める。

校内研究での位置付け

- 山形市立第一中学校
- 山形市立高瀬小学校

校内研究の組織構成（高瀬小）

研究推進
委員会

授業研究部

教育課程
創造部

資料調査部

＜取り組み方＞

・資料調査部が資料を集め、研究主任とともにホームページを作成する。

活動の実践例

- 教職員の情報講習会の実施
  - コミュニケーションシステム
  - スクールイントラパック
  - パワーポイント

- 学校HPの立ち上げと更新
  - 山形市立第一中学校
  - 山形市立高瀬小学校

- テレビ会議システムを活用した授業の実践

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館とのピースネット

平成16年12月10日

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館とのピースネット

パソコン通信を利用して、長崎の恒成さんに質問する生徒

テレビ会議システム通じ

長崎の被爆者から平和学ぶ

山形一中生徒

山形市立第一中2年1組の生徒35人がこのほど、テレビ会議システムを通じて国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の被爆者の講演を聴いた。同館と長崎平和推進協会は今年9月から、映像と音声で平和の尊さを全国に発信する「ピースネット」活動を展開しており、これに、山形市総合学習センターのテレビ会議システムを利用することで祈念館と同校がリアルタイムで結ばれた。

10日に行われた授業では、長崎平和推進協会継承部会員の恒成正敏さん(76)が「辺りから砂煙が立ちこめ、いろんな所からうめき声や助けを求める声が上がった。私にとっては決して忘れられないこと」などと、16歳当時に被爆した体験談を語った。生徒から「長崎の人にとって、原爆とは何ですか」との質問に「原爆は悪魔です。悪魔の兵器は長崎を最後にしてほしい」と答えていた。

社会科の教師として今回の授業を企画した担任の斎藤淳教諭(44)は、「父が元特攻隊員で、実体験に基づいた平和授業をどこかでしたいと思っていました。生徒たちも原爆がもたらした悲劇を体験者から直接聞いたことで、平和の大切さに気付いたようだ」と話していた。【辻本貴洋】

活動の実践例

- 教職員の情報講習会の実施
  - コミュニケーションシステム
  - スクールイントラパック
  - パワーポイント

- 学校HPの立ち上げと更新
  - 山形市立第一中学校
  - 山形市立高瀬小学校

- テレビ会議システムを活用した授業の実践

おわりに

- 今年度、研究推進部の中にIT推進部を取り入れることによって、ネットワークコミュニケーションシステムなどの情報教育を積極的に授業に取り組み、生徒の学習意欲の喚起と表現力の育成に生かすことができたのではないだろうか。

- 「課題作りの資料」「学習の足あと」として、今回コミュニケーションシステムを利用してみたが、この取り組みは来年度の子どもたちの「課題作り」に必ず生きてくるのではないかと考える。研究における様々な課題を解決するために、これからも積極的にこのシステムを利用していきたいと思う。